

修二へ

360



~さだまさしさん に捧ぐ

小池楓生子

ンテスの診療所に集まる人々など)の星と天の川、落下する滝、紺碧の空、風に向かって立つライオン、 NPO ロシナジャロの雪、草原の象のシルエット、闇の中で激しく踊る住民、南十字星と満天アフリカの映像(ビクトリア湖の朝焼け、一斉に翔び立つフラミンゴ、キリマンアフリカの映像(ビクトリア湖の朝焼け、一斉に翔び立つフラミンゴ、キリマン

修二の声「僕が医者を目指すようになったきっかけの一つに、この歌があること

♪風に立つライオン♪イン。

よりどころになります ありがとう ありがとう 何より君が僕を怨んでいなかったということが突然の手紙には驚いたけど嬉しかった

自分でもおかしい位です おかしい位です 故郷ではなく東京の桜が恋しいということが千鳥ヶ淵で昔君と見た夜桜が恋しくて

ビクトリア湖の朝焼け(100 万羽のフラミンゴが

その感動を君と分けたいと思ったことが沢山ありました

三年の間あちらこちらを廻り

何より僕の患者たちの 瞳の美しさ 一斉に翔び発つ時 暗くなる空や 一斉に翔び発つ時 暗くなる空や

大切な処で道を間違えたようですねやはり僕たちの国は残念だけれど何かやはり僕たちの国は残念だけれど何かにのになるものですねこの偉大な自然の中で病いと向かい合えば

去年のクリスマスは国境近くの村で過ごしました表年のクリスマスは国境近くの村で過ごしました素所に集まる人々は病気だけれど少なくとも心は僕より健康なのですよ

僕は「現在」を生きることに思い上がりたくないのです辛くないと言えば嘘になるけど しあわせですめなたや日本を捨てた訳ではなく しあわせです

僕は風に向かって立つライオンでありたい 等は点どみない生命を生きたい とれを支える紺碧の空 のはいい でんしょうに 空を切り裂いて落下する滝のように

心から遠くから いつも祈っています 最后になりましたが あなたの幸福を

おめでとう さようなら

修二の声「こんなカッコいい医者になりたいと思っていた」

高校の教室

授業中の修二。

修二の声「僕は、東寺(ひがしでら)修二(しゅうじ)。大分県の別府市出身。修二の声「僕は、東寺(ひがしでら)修二(しゅうじ)。大分県の別府市出身。はできなかったが、要領よく進めることができない。大学受験は的を絞ったらなかったが、要領よく進めることができない。大学受験は的を絞ったらなかったが、要領よく進めることができない。大分県の別府市出身。

春休みの高校職員室

修二「先生、やっぱりダメでした」

修二「もう一年、努力してみます。変に聞こえるかもしれないけれど、僕、勉強先生「残念だったけど、お前、よく頑張ったよ」

先生「修二、言い訳はしなくていいよ、わかってるから。勉強を愛し過ぎることするのは大好きなんです。ただ、結果に結びつけることができなくて・・・」

♪桜散る♪(部分)イン。

愛し過ぎる事は多分 愛さないと同じ言い訳はしないでいいよ わかってるから

本には春の 秋には秋の それぞれの花が咲く様に いつか知らず知らず 君と僕の時計いつか知らず知らず 君と僕の時計

季節が変わる様に 恋が逝く

桜散る 桜散る 雪の面影なぞる様に

桜散る 桜散る もう君が見えないほど

だ」
勉強の楽しさと受験という目的との、二つの針が時をたがえてしまうん先生「いつでも勉強だけを見つめて生きていくと、いつか知らず知らず、本来の

修二 「 |

先生「とにかく、来年はサクラチルにならないよう、頑張れよ」

修二「サクラチルって、何ですか?」

先生「お前、大学入試の結果を知らせる電報の文面も知らんのか。合格はサクラ

二「えっ、その電報を飛却が重んでいたんですかっサク、不合格はサクラチルだ」

修二「えっ、その電報を飛脚が運んでいたんですか?」

にハガキを出してみようかなあ。先生は、『今夜も生でさだまさし』っていたんですね。サクラチルって言葉、『生さだ』の半死半生語のコーナー修二「あっ、そうか。昔はネットもなかったから、そうやって合否を知らせて先生「バカ、電報は今でも結婚式の視電、お葬式の弔電なんかに使われてるだろ」

先生「お前、そんなの観る暇があったら勉強しろ」いう、NIIK の面白い深夜番組、知ってますか?」

現実に戻ったようにうな垂れる修二の顔。

修二の声「もっともなご指摘だ」

大学キャンパスの諸風景

教養部の授業風景など

修二の声「それから一年間、僕は予備校で頑張って、無事に医学部合格を果たすを一の声「それから一年間、僕は予備校で頑張ってくれた。だから一人っ子とは語の翻訳をしながら、女手ひとつで育ててくれた。だから一人っ子とは語の翻訳をしながら、女手ひとつで育ててくれた。だから一人っ子とは語の翻訳をしながら、女手ひとつで育ててくれた。だから一人つ子とはい方にの声「それから一年間、僕は予備校で頑張って、無事に医学部合格を果たす

日豊本線の日出〜豊岡間を走る特急列車の窓から見た別府の風景

ラキラ光っている。その向こうに鶴崎山。ゆるいカーブを描く別府湾は左手に広がって、キ右手に扇山、その向こうに鶴見岳。正面には別府の湯けむりの街並みと、

♪案山子♪イン。

寂しかないか お金はあるか 今度いつ帰る

消えればお前がここを出てから初めての春にの町を綿菓子に染め抜いた雪が橋のたもとに造り酒屋のレンガ煙突城跡から見下ろせば蒼く細い河

※ 手紙が無理なら 電話でもいい 「金頼む」の一言でもいい お前の笑顔を待ちわびる

*くりかえし

置き去られて雪をかぶった 案山子がひとり銀色の毛布つけた田圃にぽつり 山の麓煙吐いて列車が走る

体をこわしてはいないか なをこわしてはいないか

*くりかえし

寂しかないか お金はあるか 今度いつ帰る

♪案山子♪が流れながら。

大学キャンパスの諸風景

入っていたりしたが、既読スルーにすることも多かったのが事実だ」っていった。母からは相変わらず手紙が届いたり、携帯電話にメールがの部活動や、家庭教師のアルバイトもしていたから、帰省は後回しになの商活動や、家庭教師のアルバイトもしていたから、帰省は後回しにない声「大学に入学した当初は、多少のホームシックもあって、休暇のたびに医学部の講義風景、医学部の実習風景、クラブ活動の風景など

総合病院の諸風景

研修医姿の修二が時々映される。

診察室前の廊下

診察室から廊下に出て、患者さんの名前を呼ぶ修二。

ら研修は始まることになる」の医者は素人同然だ。だから、まず基本となる内科の問診と身体診察か修二の声「医師国家試験に受かったからといって、医療行為に関して、ほとんど

♪微熱 (部分) ♪イン。

まが聴こえる 君の鼓動が聴こえるとでも静かに 波が押し寄せてくるとでも自然に 君の名前が呼べるその眼を閉じて 言葉を閉じて空から愛 降り注いでいる 今

(DAY & NIGHT NIGHT & DAY)

君の事しか 見えない

♪微熱(部分)♪が流れながら

診察室

修二「今日はどうされましたか?」
修二「今日はどうされましたか?」
修二「だうして寝られないんですか?」
修二「熱は昼間に出ますか? それとも夜に出ますか?」
患者「熱があって、きつく感じるんです」
患者「熱は昼間に出ますか? それとも夜に出ますか?」
きる「熱は昼間に出ますか? それとも夜に出ますか?」

♪微熱(部分)♪が流れながら

君が伝わる 君の鼓動が伝わる 可笑しい位 ひどくうろたえている 可笑しい位 ひどくうろたえている 生まれ変わっても 出会えるとさえ思う たとえこの世が 明日終わろうと めぐりあいそして 君を愛せると てのひらに 感じている 微熱 (DAY & NIGHT NIGHT & DAY)

ふたたび診察室

気づき、聴診器を当て直す。 を二は、別の患者さんの胸に聴診器を当てたが、何も聴こえないようで、修二は、別の患者さんの胸に聴診器を当てたが、何も聴こえないようで、

修二の声「心臓の音を聴くなどの理学所見を取るにしても、最初はなかなかうま くいかないものだ」

別の診察室

修二の声「二年間の研修では、整形外科にも行った。どこの科でもそうだが、新 のは、体格の良い師長。 か上手くできず、何度も巻き直している。それを後ろでジッと見ている ボサボサ頭の修二は、患者の手の指に白い包帯を巻いているが、なかな

てくれていたとも思う」 感じで、要領の悪い僕はビシビシしごかれたが、でも、その分可愛がっ り立たない。ここ整形外科では、師長さんがまるで肝っ玉母さんという 存在だ。逆に言えば、医者は看護師さんを敵に回すと、チーム医療が成 米の医者よりベテランの看護師さんの方が、よっぽど頼りがいのある

♪追伸 (部分) ♪イン

あなたの指の白い包帯 あなたがとても無口になった秋に 芙蓉の花は枯れたけど 上手に巻いてくれたのは誰でしょう こわくて私聞けませんでした 撫子の花が咲きました 風に頼んでも無駄ですか

髪を切りました

どこにもある様な事ですか

振り返るのは嫌いですか

♪追伸(部分)♪が流れながら

整形外科のナースステーション

修二は、師長から諭されている。

けてしまったって、戻ってきていましたよ」 師長「センセ、さっきの患者さん、帰りの会計をする時に、指の包帯がもうほど

修二一えつ

師長「上手に巻き直しておきましたよ」

師長「それからセンセ、その髪、どうにかしたら」

修二「すみません、週末も仕事が終わらなくて、なかなか散髪に行けないもの

で・・・」

♪追伸(部分)♪が流れながら

たとえば今日のあなたのこと

あなたの声が弦しくて耳をふさぎま他の人と楽しそうに笑ってた

あなたの声が眩しくて耳をふさぎました

下手なくせにあなたの為に

編みかけた白いベスト

やはり夢でした ほどき始めましょう

あなたに借りた鴎外も

読み終えていないのに

最後のわがままですあなたの

肩巾教えてください

別の日の整形外科ナースステーション

が入っていく。

師長が楽しそうに他の研修医と話しているところに、髪を切った修二

師長「あら、東寺センセ、髪切ったのね。スッキリして男前になったじゃないの」

修二、ちょっと照れた表情。

研修医1「東寺、師長さんな、今月で定年退職だって。寂しくなるよな」

修二「えっ、そうなんですか。師長さんに借りた包帯の巻き方の本、まだ読み終

研修医2「師長さんに退職のプレゼントを贈ろうって、今みんなでリクエストをえていないのに・・・」

聞いていたところなの」

そしたら、再就職先でも家でも着ていただけるだろ」ている感じだろ。もっと上等なのを差し上げようって相談してたんだ。研修医3「師長さんのこのカーディガン、病院支給だから、結構年季が入っ

修二「あ、いいですね。僕、ネットで下調べしてみましょうか。師長さん、服の

師長、ちょっとキッとした表情になって。

修二の声「ああ、またやってしまった・・・」師長「センセ、私にそれを聞くのはセクハラよ」

村銀村査室

修二の声「二年間の臨床研修を終えた後は、専門医を目指して、さらなる研修を修二の声「二年間の臨床研修を終えた後は、専門医を目指して、さらなる研修のの患者さんを診られるようにしたいと思った。僕が研修をした病院のの患者さんを診られるようにしたいと思った。僕が研修をした病院のの患者さんを診られるようにしたいと思った。僕が研修をした病院のの患者さんを診られるようにしたいと思った。僕が研修をした病院のの患者さんを診られるようにしたいと思った。僕が研修をした病院のの専門医と一緒に研修もさせてもらえる。今日は、尊敬する内科の先生の専門医と一緒に研修もさせてもらえる。今日は、尊敬する内科の先生の専門医と一緒に研修もさせてもらえる。今日は、尊敬する内科の先生と、大腸内視鏡検査だ」

引き、もう一度引き直す。 ることができなくなり、先輩医師が修二に手を添え、一度ファイバーを修二が大腸ファイバーを持って検査している。途中、うまく挿入を進め

♪飛梅 (部分) ♪イン。

大吉が出る迄と も一度引き直したね で字池にかかる 三つの赤い橋は 初めて君の手に触れた 僕の指 三つ目の橋で君が 転びそうになった時 三つ目が過去で 二つ目が現在

天神様の細道 下るしかないと 気づかなかった 上り詰めたらあとは 下るしかないと

内科医師「東寺君、直腸からの状結腸を通過したら、残りの三つは、一つ目が下で、つまり上行結腸で止まりそうになった時、僕は手を添えたんだ。大で、つまり上行結腸で止まりそうになった時、僕は手を添えたんだ。大勝は細い道みたいなもんだから、ファイバーは下行結腸を上ったら、あとは上行結腸を下るだけだ」

気づいていなかった」
修二の声「そうだ、上り詰めたらあとは下るしかないと、下るしかないと、僕は

内視鏡検査室の裏の細い通路

たから、休憩室で少し休もうか」 内科医師「東寺君、緊張して疲れただろう。今日はちょっと差し入れをいただい内科医師の後ろに修二がついて歩いている。

休憩室

には梅が枝餅の箱があり、それぞれ手をのばす。ソファに向かい合って座る内科医師と修二。二人の間のテーブルの上

♪飛梅 (部分) ♪が流れながら

あなたがもしも 遠くへ行ってしまったらあなたがもしも 遠くへ行ってしまったらあなたがもしも 遠くへ行ってしまったらあなたがもしも 遠くへ行ってしまったらあなたがもしも 遠くへ行ってしまったらあなたがもしも 遠くへ行ってしまったら

忘れたのかい 飛梅

内科医師「梅が枝餅は、いつ食べても美味しいなあ。ペロッと一つ食べてしまっ

修二「検査で緊張しすぎたみたいで、入らないんです。」

内科医師「最初はみんな、そんなもんだよな。場数を踏めば、上手くできるよう

先生に安心して見ていていただけるようになりたいです」 修二「早く上手くなりたいです。今年中にしっかり検査症例をこなして、来年は

内科医師「---

くの病院に転勤で行ってしまったら、僕も一夜で飛んで行きます」修二「いや~、ホント先生の手技、素晴らしくて尊敬してます。先生がもしも遠

内科医師「——」

すがに一緒に行くことはできなかった」
修二の声「実は、先生は翌年、アメリカに留学することが決まっていた。僕はさ

病院のロビー

♪0. K! ♪イン。

O.K! 翼をあげよう の.K! 翼をあげよう

二人きり この空を翔びたい

月の光を浴び乍ら 僕はピーターパン

Go To Never Never Land

抱きしめて今夜は帰さない

修二の声「皆さんにご指導いただいたおかげで、総合診療科の研修を終える頃、修二の声「皆さんにご指導いただいたおかげで、総合診療科の研修を終える頃、 、時半まで。当直に入った日付のうちは、夜はまだこれからと思って頑 、明れる。でも、日付をこえて未明になっても来院患者さんは途切れず、 ・張れる。でも、日付をこえて未明になっても来院患者さんは途切れず、 ・張れる。とは決してない、never なんじゃないかと感じることも なる」

病院の救急外来

場合、今夜は帰さないよと説得するようにしている」修二の声「時には、急性アルコール中毒の患者さんもやってくる。暴れまくるわがままな患者さんに治療するのは大変だ。そこまでせずに放っておい暴れる酔っ払いの患者を、修二が抱きしめてなだめている。

♪0. K!♪が流れながら。

O.K! 君しか見えない の.K! 君しか見えない

君はメロディー 僕はハーモニー 月の光を浴び乍ら

僕たちの愛はまだこれから

警備員もロビーに次々に出てきて、一緒に踊る。修二以外の医者、その他の看護師、放射線技師、検査技師、事務職員、

僕ら医療界の人間にとっては、人の不幸が飯の種であるということ」れるのも事実だ。ただ一つ、調子に乗った時でも忘れていけないのは、ここまで仕事ができるようになってきた自分に対して、充実感が得ら修二の声「当直は本当に忙しいから、時には何もかも忘れて踊りたくなる。でも、

基礎医学研究室

修二の声「尊敬する内科の先生が留学したのは、内科医としてではなく、基礎医学分野での研鑽を積むためだった。そこで、出身大学の大学院を受験勉強してみたいと思うようになった。先生の話を聞きながら、僕も基礎医し、基礎研究室に所属することになった」

♪豆腐が街にやって来る(部分)♪イン。

骨粗鬆症って言いにくいぞ 1 粗鬆症って言いにくいぞ カボル動脈硬化骨粗鬆症にはイソフラボノイド 北がん動脈硬化骨粗鬆症にはイソフラボノイド かんり かんり かんしょう かんしょう かんしょう かんしょう かんしょう かんしょう かんしょう かんしょう かんしょう はんしょう かんしょう はんしょう はんしょく はんしょう はんしょう はんしょく はんしん はんしょく はんしょく はんしょく はんしょく はんしょく はんしん はんしん はんしん はんしん はんしん はんしん はんしんしん はんしん はん

容器を持って来て下さいおいしい豆腐が出来ましたのでおいしい豆腐が出来ましたので

おお どうもオリゴ糖!

「おお」とでは、 トリプシンインヒビター 糖尿病の予防に トリプシンインヒビター おお どうもオリゴ糖 おお どうもオリゴ糖 といった アンスにも良い カルシウム

の説明だ。
研究を進めることになる。今日は、その物質の概略について、教授からを行っていた。同期で入った大学院生は、それぞれ希望の物質を選んで修二の声「その研究室では、生活習慣病に有効とされる様々の物質について実験

修二の声「僕らは、ひたすらメモを取っていく」

だ」
出てくるのは二回目かな。腸内にビフィズス菌を増やすのは、オリゴ糖出てくるのは二回目かな。腸内にビフィズス菌を増やすのは、オリゴ糖カルシウム。脂肪代謝や脂肪肝にも効果があるレシチン。お、レシチンが教授「糖尿病の予防には、トリプシンインヒビター。骨や歯やストレスにも良い

修二の声「おお、色んな選択肢を、どうもオリゴ糖!」

国際会議場の大ホール

国人演者に対して英語で質問をしている。スーツ姿の修二は、フロア中央のマイクスタンドの前に立ち、壇上の外

♪豆腐が街にやって来る(部分)♪が流れながら。

容器を持って来て下さい字由はみな兄弟だ奇跡の和の心字由はみな兄弟だ奇跡の和の心おいしい豆腐が出来ましたので

勇気を出して来て下さい容器を持って 容器を出して

お碗出せ 容器を持って 茶碗出せ 容器を持って お椀出せ 容器を持って 茶碗出せ 容器を持って

茶碗出せ 勇気を出して お椀出せ 勇気を出して お椀出せ 勇気を出して

朧豆腐に胡麻豆腐 卯の花 がんもどき木綿 絹ごし 油揚げ生揚げ 焼豆腐

お椀出せ茶碗出せ

修二の声「結局、僕は大学院の間、イソフラボノイドについて研究をすることにの声「結局、僕は大学院の間、イソフラボノイド研究における世界的な大家が招かれることになった。の情報を得ることも大切だ。その年、大学のある街で開かれた学会には、イソフラボノイド研究における世界的な大家が招かれることになった。市の街まで、研究の聖者ともいえる人がやってくるのは珍しい。噂によると、イソフラボノイドが多く含まれる豆腐をいたく気に入っていて、本場で豆腐を食べるためにも、わざわざ日本に来る気になったのとのことだ。学会では、僕も勇気を出して、拙い英語で質問をした。イソフラボノイドが多く含まれる大豆以外の豆類について尋ねたつもりだったが、僕のジャパニーズイングリッシュでは、どうも別の質問内容に聞たが、僕のジャパニーズイングリッシュでは、どうも別の質問内容に聞たが、僕のジャパニーズイングリッシュでは、どうも別の質問内容に聞こえたらしい」

外国人研究者「That is a good question! The answer is 木綿 絹ごし 油揚外国人研究者「That is a good question! The answer is 木綿 絹ごし 油揚

大学生時代の修二のアパートの部屋

れる。 途中、卓球のダブルスペアとして活躍する映像もフラッシュバックさまだ大学生だった修二と、親友の健志(たけし)が一緒に過ごしている。

♪あなたを愛したいくつかの理由(部分)♪イン。

修二の声「大学院に入ってから、辛いこともあった。大学時代からの親友、健志と作二の声「大学院に入ってから、辛いこともあった。大学時代からの親友、健志はが事故で死んでしまったことだ。健志と僕は同じ卓球部に所属して、ダイナミックなドライブマンと、卓球のプレースタイルは全く逆。私生がう風に正反対だったが、なぜか僕らはとても仲良しだった。大学五年いう風に正反対だったが、なぜか僕らはとても仲良しだった。大学五年いう風に正反対だったが、なぜか僕らはとても仲良しだった。大学五年の時は、何があったか知らないが、健志は街にあった実家を飛び出して、ダが事故で死んでしまったが、なぜか僕らはとても仲良しだった。大学時代からの親友、健志は一大学院に入ってから、辛いこともあった。大学時代からの親友、健志といった。大学時代からの親友、健志といった。大学時代からの親友、健志といった。大学時代からの親友、健志といった。大学時代からの親友、健志といった。大学時代からの親友、健志といった。大学時代からの親友、健志といった。

♪あなたを愛したいくつかの理由(部分)♪が流れながら。

次に会えた時 胸を張って笑えるように

幸せな笑顔で あなたの目を見られるように そうでなければ この愛のすべてが嘘になるから 今 愛に賭けて夢に賭けて歩き出すところ 二人それぞれの遠い道を歩き出すところ 次に会えた時 胸を張って笑えるように 幸せな笑顔で あなたの目を見られるように

修二の声「健志は二年間の臨床研修を大学病院で終えて、循環器内科を専攻し、を一中病院で夢に賭けてバリバリ働いていた。事故があったのは、深夜らしい。過労に伴う睡眠不足が事故の原因ではと報道されていた。大学を卒業してからは、お互い忙しくて、三回くらいしか顔を合わせていなかった。次に会えた時は、一人前の医者として、僕も胸を張って笑えるかった。次に会えた時は、一人前の医者として、僕も胸を張って笑えるようにと思っていたのだが・・・」

佐世保の健志の実家

らには、着物姿の健志の母親。

▶精霊流し(部分) ♪イン。

おずかの間に年老いて 寂しそうですわずかの間に年老いて 寂しそうですられた場でいた糸で くすり指を切りました あなたの愛した母さんの あなたの愛した母さんの あなたの愛した母さんの かけいの間に 年老いて 寂しそうです

修二の声「健志が亡くなった年のお盆には、健志のお母さんから連絡をいただい

そいて寂しそうだった」と世保での精霊流しに参加した。健志の実家は大学のある街と思って、佐世保での精霊流しに参加した。健は薬指を切ってしまった。人し実家で、大学生の頃に健志が僕の部屋でつま弾いたギターを僕が弾いてみた。いつの間に錆びついた弦で、僕は薬指を切ってしまった。人学生のでみた。いつの間に錆びついた弦で、僕は薬指を切ってしまった。大学生のてみた。いつの間に錆びついた弦で、僕は薬指を切ってしまった。人学生のてみた。いつの間に錆びついた弦で、僕は薬指を切ってしまった。

佐世保の精霊流し会場

修二は、健志の母親らとともに、黙って精霊船のあとをついて行く。

♪精霊流し(部分)♪流れながら。

ついてゆきましょう そして黙って舟の後を 源は見せずに 過ごしましょう

あなたと私の人生を かばうみたいに静かに時間が通り過ぎます人ごみの中を縫う様に

修二の声「健志のお母さんの姿は、ちょっとだけ僕の母に重なった」

別府にある修二の実家(母親の部屋)

短く鳴いてゆく。真星の雨が降っているが、音はなく、桐の花も咲いて短く鳴いてゆく。真星の雨が降っているが、音はなく、桐の花も咲いてッセージが残るスマートフォン。窓の外には、鈍色の空を低く飛ぶ鳥がの結果が書かれた紙と、「お母さんは元気です」と書きかけの LINE メ文机の前に座って物思いにふける修二の母親。文机の上には、病理検査

♪桐の花(部分)♪イン。

鉱色の空を 低く飛ぶ鳥が 遠くで季節のかわりゆく音を 独りきり聴いている午后 手紙を書きます 少しつらいです 離れて暮らしてる あなたが見えない 私元気です 本当は嘘です

窓の外 宙高く 音もなく 桐の花 うらみがましい文字になるのがやるせない 咲いてよいのか 枯れてよいのかわからない

僕に余計な心配をかけまいとしたのだろう」が見つかっていただなんて、僕は知る由もなかった。母にしてみれば、が見つかっていただなんて、僕は知る由もなかった。母にしてみれば、時々LINEが届いていたが、きちんと返信しないことも多

♪桐の花(部分)♪が流れながら。

ひとことで かまわない 返事を ください去れというなら 夕暮れ迄に消えましょう待てというなら 二千年でも待ちましょう

窓の外 宙高く 音もなく 桐の花 散れというなら 夕暮れ迄に散りましょう 咲けというなら 二千年でも咲きましょう

修二の声「ああ、今になって考えてみれば、LINE でも構わないから、もう少し

別府にある修二の実家(修二の部屋)

がっている。部屋には、午后の陽射し。

♪ October~リリー・カサブランカ~ (部分) ♪イン。

今日 君の誕生日 ふと思い出した 元気でいますか しあわせですか 君と二人きりで 祝ったあの日 しあわせなのが 切なかった カサブランカの 儚く白い風が 部屋を包んでいた

遠ざかったその風景は色褪せないもう 気が違う程に いったるの風景は色褪せない

修二の声「別府に帰省していない間も、故郷のことを時々懐しんではいた。母の修二の声「別府に帰省していない間も、故郷のことを時々懐しんではいた。母の家で生まれた五匹の仔犬のうちの一匹を譲り受けたものだ。どこかの家で生まれた五匹の仔犬のうちの一匹を譲り受けたものだ。どこかの携帯電話会社のコマーシャルに出てくるような真っ白い犬の子で、生まれたばかりの時に母犬と別れるのは辛そうで、心を傷つけそうだったけど、僕がどうしても欲しくてもらってきた。母は真っ白な毛色をったけど、僕がどういう花かも知らなかったけど、母には父との想い出サブランカがどういう花かも知らなかったけど、母には父との想い出サブランカがどういう花かも知らなかったけど、母には父との想い出サブランカがどういう花かも知らなかったけど、母には父との想い出サブランカがどういう花かも知らなかったけど、母には父との想い出せてもあったのだろうか」

大分の球場

「west という。」 ークスのペットユニホームを着せられており、暑いのか、舌を出してハーしている。 ーハーしている。 修二はレプリカユニホーム姿。カサブランカもホーハーしている。 外野席で、カサブランカを抱いて、ソフトバンクホークスの試合を見て

一緒に出かけた」
大分市にホークスの試合を見に行った時も、お揃いのユニホーム姿で修二の声「僕はとにかくカサブランカをかわいがっており、受験勉強の息抜きに

修二の実家(リビング)

母親に叱られている。
ぐったりして悲しい表情のカサブランカを抱いた高校時代の修二が、

♪つゆのあとさき (部分) ♪イン。

君に確かな事は もう制服はいらない悲しい仔犬の様に ふるえる瞳をふせた君は息を止めて 次の言葉を探してたごめんなさいと一言 わすれないと一言

君は最後までやさしかった別れ行く時も 花びらの中めぐり逢う時は 花びらの中

遠ざかる 君のあとをかけぬける 梅雨のあとさきのトパーズ色の風は

修二「ごめんなさい」

中症を起こしたのよ。二度とそんなことをしたらダメ。忘れないで」修二の母親「暑いのに、カサブランカにそんなユニホームなんか着せるから、熱

『一「忘れない

で、ふるえる瞳を伏せる。

修二の声「カサブランカに確かな事は、もうペットユニホームはいらない」

修二の実家(ふたたび修二の部屋)

にいた母親が、突然涙をこぼす。修二は、家を出る荷造りに、母親の手を借りている。しばらくは楽し気

♪秋桜(部分)イン。

唇かんでいます
唇かんでいます

何度も何度もくりかえす母突然涙こぼし元気でとしばらくは楽し気にいたけれど明日への荷作りに手を借りて

もう少し あなたの子供でこんな小春日和の穏やかな日は

いさせてください

と、今更ながら我儘な僕に唇を噛む思いだ。カサブランカもだけれど、修二の声「あれこれと別府の思い出をたどったら、いつの日も一人ではなかった

していた時、母は何度も何度も、元気でと繰り返してくれた」 やはり母の存在は大きい。大学合格が決まって、一人暮らしへの準備を

修二の実家(玄関)

玄関のドアを開けて出て行こうとした修二が、見送る母親に振り返っ

修二「さよなら」

さよならの響きに自分で驚いて 君から言い出した別れなのに

も一度抱きしめて欲しいなんて あふれそうな涙こらえてる

ぬくもりの中で恋を見送らせてと

向こうで揺れてた 鉢植えの デイジー

たとえ別れても 愛は変わらない

修二の声「大学入学で、実際に別府を離れる朝もそうだった。一人暮らしをする 進学先は、僕から言い出したことなのに、さよならの響きに自分で驚い

修二は、ふたつほど大きなため息をついて、あふれそうな涙をこらえて

てしまった」

修二「もう一度、抱きしめて」

修二の声「母のぬくもりの中で見送って欲しいと最後の我儘を言ってしまった」 母は、修二を抱きしめる。

♪デイジー (部分) ♪イン。

ふたつほど大きなため息ついて

最后の我儘 君の髪の匂いの

忘れないで 僕だけは君の味方

忘れないで いつまでも君の味方

たとえ世界を敵に回しても

かがすり寄ってくる。とえ世界を敵に回しても」とえ世界を敵に回しても」とえ世界を敵に回しても」とればいる。修二の足元に、カサブランを入世界を敵に回しても」

基礎医学研究室

♪がんばらんば Motto♪イン。

世間は景気ん悪かて だいちゃかいちゃ言いよるばってん そいがなんねどんげんか すーですーでわいなんばしょっと そいけん言うたったい きつかとはなーんもわいだけじゃなかとよ

どんげんねそんげん思わんね こん位で塩垂れとったら笑わるっぱい (ハイ)

でんでらりゅうばでてくるばってん でんでられんけんでてこんけん

がんばらんば 何でんかんでん がんばらんばがんばらんば Motto Motto がんばらんば こんこん

がんばらんば

がんばらんば どいでんこいでん がんばらんばよ

Motto Motto がんばらんば

トミュモビューオラモニ、 月後日ニュキ書ニ点(こうう)ニ、心ん割れても意地できびって止めんね 忘れた頃にやようなっとるばい

小さか花でも自分の花たい 明後日にや綺麗に咲くやろうたい

わいなんばしょっと そいけん言うたやかね 悪か事ばっかし続いてたまるもんね

本当ばい明日笑おうで そんげんばってんあんまいやったらちゃんぽん喰うて寝っ (ハイ)

こんこられんけんこられられんけん こんこん でんでられんけんでてこんけん

こんこられんけんこられられんけん こんこん
こんこられんけんこられられんけん こんこん

がんばらんば どいでんこいでん がんばらんばがんばらんば Motto Motto がんばらんば がんばらんば Motto がんばらんばがんばらんば Motto がんばらんばがんばらんば Motto がんばらんば

がんばらんば どいでんこいでん がんばらんばがんばらんば Motto Motto がんばらんばがんばらんば Motto がんばらんばがんばらんばがんばらんばがんばらんばがんばらんばがんばらんばがんばらんば

緒に踊る。 研究補助員、豆腐のパックを持った外国人の研究聖者も入ってきて、一研究補助員、豆腐のパックを持った外国人の研究聖者も入ってきて、一修二が『がんばらんば体操』を踊る。途中からほかの大学院生、教授、

して運動不足になりそうな時は、体操で補った」 つともっとという感じで、何でもかんでも頑張った。狭い実験室で過ごっともっとという感じで、何でもかんでも頑張った。狭い実験室で過ごりな結果も発表した。母が僕の味方だと言ってくれたのを思い出し、も修二の声「僕は大学院生時代、自分の研究分野で、世界の重鎮たちを敵に回すよ

長崎のシーボルト記念館

ーボルトとお滝さんの説明書を読む。記念館の外には、紫陽花。蛍茶屋で路面電車を降りて、記念館へ歩き、館内を見てまわる修二。シ

♪ 紫陽花の詩 (部分) ♪イン。

おらんださんの置き忘れ 世別抜けてく川端柳 中川抜けてく川端柳 中川抜けてく川端柳

修二の声「大学院時代、研究に疲れた時は、ふっと小旅行に出かけることもあっ修二の声「大学院時代、研究に疲れた時は、ふっと小旅行に出かけることもあっ

主堂など)

↑フレディもしくは三教街-ロシア租界にて-(部分) ↑イン。

フレディ あなたと出会ったのは 漢口

三教街を抜けて 初めて行った レストランカレディ 二人で 初めて行った レストランあなたは人力車夫を止めた

フランス租界へとランデブー 表の頃私が一番好きだった 三教街のケーキ屋を覚えてる? ヘイゼルウッドのおじいさんの なんて深くて蒼い目 いつでもパイプをくゆらせて アームチェアーで新聞をひろげてた アレディ あなたも 年老いたらきっと あんなすてきな おじいさんに なると思ってたの 本当に思ってたの

修二の声「長崎は、異国情緒の街と言われる。日本の和、中国の華、オランダの修二の声「長崎は、異国情緒の街と言われる。日本の和、中国の華、オランダの終二の声「長崎は、異国情緒の街と言われる。日本の和、中国の華、オランダのお互いすぐ近所に建てられていることがわれるのだ」

長崎の観光名所(平和公園など)

♪フレディもしくは三教街-ロシア租界にて-(部分)♪が流れながら。

燃えあがる紅い炎の中を飛び交う戦斗機けれでもそんな夢のすべても、あなたさえも奪ったのは教会の鐘の音は響くはずだった。

ができたら、それぞれの多様性を認め合うことができたら、無意味な争もう少しでいいから原理主義じゃない、寛容な心を持ち合わせること修二の声「だから、今でも宗教に根ざした対立が世界で起きているけれど、皆が

いは防げるんじゃないか。長崎にいると、そう感じさせられた」

アメリカ同時多発テロをはじめとする、テロの新聞報道

♪September Moon~永遠という一瞬~(部分)♪イン。

下弦の月が傾く東京 Rew York New York 人はいつまで こんな風に 傷つけあうのだろうか 下弦の月が傾く東京

涙こらえながら

人ごとのように過ぎてゆく平和

見上げれば September Moon

かったが、誰もがどこかで不安を感じる時代だったと思う」大学院の時、モテない僕にもなぜか彼女ができて、幸せを感じる時も多修二の声「でも、現実の世の中では、不寛容から発する戦いが繰り返されている。

さんが『遥かなるクリスマス』を歌う姿を映すスクリーンなど)西鉄電車の福岡天神駅にある大スクリーン周辺の雑踏(雪模様、募金風景、さだ

♪遥かなるクリスマス♪イン。

メリークリスマス

二人のためのワインと それから君への贈り物を抱えて駅を出る

ハリークリスママ

外は雪模様気づけば ふと見知らぬ誰かが僕にそっと声をかけて来る

メリークリスマス

振り向けば小さな箱を差し出す 助け合いの子供に僕はポケットを探る

メリークリスマス

携帯電話で君の弾む声に もうすぐ帰るよと告げた時のこと

メリークリスマス

ふいに誰かの悲鳴が聞こえた 正面のスクリーン激しい爆撃を繰り返すニュース

メリークリスマス

僕には何も関係ないことだと 言い聞かせながら無言でひたすらに歩いた

メリークリスマス

僕達のための平和と 世の中の平和とが少しずつずれ始めている

メリークリスマス

誰もが正義を口にするけど 二東三文の正義 十把一絡げの幸せ つまり嘘

シークリファフ

僕はぬくぬくと君への 愛だけで本当は十分なんだけど

メリークリスマス

本当は気づいている今この時も 誰かがどこかで静かに生命を奪われている

メリークリスマス

独裁者が倒されたというのに 民衆が傷つけ合う平和とは一体何だろう

メリークリスマス

人々はもう気づいている 裸の王様に大人達は本当が言えない

メリークリスマス

いつの間にか大人達と子供達とは 平和な戦場で殺し合うようになってしまった

メリークリスマス

尤も僕らはやがて自分の子供を 戦場に送る契約をしたのだから同じこと

ハリークリスマー

子供の嘘は大人の胸の底を 探りながらじわりじわりと壊れてゆく

メリークリスマス

本当に君を愛している 永遠に君が幸せであれと叫ぶ

メリークリスマス

その隣で自分の幸せばかりを 求め続けている卑劣な僕がいる

メリークリスマス

世界中を幸せにと願う君と いえいっそ世界中が不幸ならと願う僕がいる

東りつく涙を拭いながら メリー メリークリスマス 生きてくれ生きてくれ生きてくれと叫ぶ メリークリスマス 雪の中で雪の中で雪の中で メリークリスマス

メリークリスマス

ったのかも知れない」
ど、目の前の幸せと、目の前の目標以外は、あえて見ようとしていなか修二の声「僕だって、このままの世の中じゃいけないというのは解っていたけれ

メリークリスマス

子供虐待の新聞報道

♪あなたへ(部分)♪イン。

愛しいあなたが今までとれでも自分を捨てないで心を護って生きてきたかあの時にも あんな時にもあの時にもありな時にもあります。

私にはあなたを護る 歌うことだけ あなたのために 歌うしか出来ないけど どんな時にも いつでも どんな時にも いつでも

修二の声「平成という世は、辛いニュースも多い時代だったと思う。日本国内で修二の声「平成という世は、辛いニュースも多い時代だったと思う。日本国内で

急患センターの診察室

りした子ども、泣きじゃくる子ども、ニコニコしている子ども、表情は白衣姿の修二が、次から次に来院する小児患者を診察している。ぐった

♪あなたへ(部分)♪が流れながら。

例えば不安と希望 もしも私の歌が あなたの不安を和らげられて 令日のことより 明日のことへ 今日のことより 明日のことへ

届け届け この歌 届け届け届け この愛幸せはきっといつか来る きっと綺麗に花は咲く寒い冬のあとにでも きっと綺麗に花は咲く悲しみの中でも季節は巡る

修二の声「大学院時代は、学費と生活費を稼ぐために、臨床医としてのアルバイ修二の声「大学院時代は、学費と生活費を稼ぐために、臨床医としてのアルバイ

療養型病院の病室

け、老人と話している。白衣姿の修二が、背を起こしている男性老人のベッド横で椅子に腰か

▶一万年の旅路(部分)

生きた証の皺を恥ずかしいと 彼は少し笑って静かに言った 限らないじゃないかと

思う方がおかしいだろう

嬉し涙の流れを刻み 悲しみの皺だけじゃない

喜びの笑顔さえもまた

自分の顔に刻んできたのだろう

これでも昔の私の顔よりは少しばかり答えるに決まってるけれど

ましになったと思っているんだよ

人は生まれてきたのかも知れないそんなことを理解するために

修二の声「片や、お年寄りたちの話を聞くことは、僕にとって、とても勉強になけれど、お年寄りたちの話を聞くことは、僕にとって、とても勉強になた。そこでは慢性疾患の管理が中心で、高度な医療を行った訳ではない

♪一万年の旅路(部分)♪が流れながら。

違いがいつか君にも分かるだろう おい頃に見えたものと 年老いて見えるものとの

本物と偽物あるいは正義について

気付くものだけが美しい

胸を張って生きてゆき給え 恩は石に刻み給え 恨みは水に流し給え とのな人になりたいと思わないか? とのでは福が来る 辛い時でも笑ってる

気付いたものだけが美しい年老いてからの花は少体の中に咲くからいっときは目が眩むけれど

人は生まれてきたのかも知れない人は生きているのかも知れない

修二の声「若い頃に見えたものと年老いて見えるものとの違いが、若い僕にはまだ、た。恩は石に刻んで、恨みは水に流そうと思った。それでも、僕はまだ、た。恩は石に刻んで、恨みは水に流そうと思った。それでも、僕はまだ

療養型病院の医局

修二「先生、僕はまだ、ここに入院している患者さんの気持ちを本当に理解でき修二は、老医師である院長と話している。

気付けるかどうかだな」院長「年老いてからの花は心の中に咲いて、季節を選ばないからなあ。その花に

るのか、自信がありません」

修二「僕はまだ若過ぎます」

Unit Children and Children and

院長「若さを嗤わず、老いを恨まず。僕もいつか来た道、君もいつか行く道」

院長「いのちを恥じず、いのちに怯えず。与えられし命、悲しきもまたよろし」

♪残春 (部分) ♪イン。

れつか それで おいを恨まず れつか 来た道

黙して独り行く 氷い永い坂を 水い永い坂を

心に咲く花は 与えられしいのち 与えられていのち

修二の声「噂によると、院長は昔、癌の手術で名高い外科医だったそうだが、六修二の声「噂によると、院長は昔、癌の手術で名高い外科医だったそうだが、六かなしきもまたよろし

♪残春(部分)♪が流れながら。

怒りに任せず

悲しみに負けず

温去に惑わず

いつか 届く場所へ

楽しきもまたよろし 時を疑わない

心に咲く花は

ることを夢見たい。いつかその場所に届きたい」
修二の声「未来を憂えず、過去に惑わず。僕も、いつか院長みたいな医師になれ

療養所(やわらかな陽溜り)

く。悲しい静けさ。

♪療養所♪イン。

あのおばあさんが気がかりなせいとんなに心が重いとは思わなかったこんなに心が重いとは思わなかったこんなに心が重いとは思わなかった。

夜中に僕の毛布をなおす事だけはすぐに忘れてしまう彼女はしかし

必ず忘れないでくれた

人は云うけれど それは多分嘘だ 歳と共に誰もが子供に帰ってゆくと

抱きしめて 燃え残る夢達 思い通りにとべない心と 動かぬ手足

やわらかな陽溜りとかなしい静けさの中さまざまな人生を抱いた療養所は

修二の声「認知症患者が多く入院している療養所にも、二ヶ月間だがアルバイトを一の時、夜中に宿直室に来て、僕の毛布を直すことだけは必ず忘れないでの時、夜中に宿直室に来て、僕の毛布を直すことだけは必ず忘れないで

♪療養所♪が流れながら。 身分の病気の重さと人生の重さ 自分の病気の重さと人生の重さ それから とるに足らない噂話をあの人は とるに足らない噂話をあの人は

語ればそれは嘘になるとれば事実とれば事実とれば事実となかった。

真実は冷ややかに過ぎてゆく 幸せ不幸せ それは別にしても まぎれもなく人生そのものが病室で

やわらかな陽溜りとかなしい静けさの中さまざまな人生を抱いた療養所は

来週からなれること

来週からなれること

修二の声「いつも黙って笑顔のおばあさんを、ふた月の間に訪れる人は、誰もなを二の声「いつも黙って笑顔のおばあさんを、ふた月の間に訪れる人は、誰もな

日豊本線にある亀川駅の待合室

無く寝そべるカサブランカ。ベンチに座っている修二の母親。その足元には、すでに老犬になってカ

♪空蝉 (部分) ♪イン。

任犬だけを現世の道連れに と元に力無く寝そべった くなるである。 と元に力無く寝をでった。 はないた夫婦

修二の声「大学院も三年目を迎える頃のある日、僕は別府へ帰省するつもりで、 を二の声「大学院も三年目を迎える頃のある日、僕は別府へ帰省するつもりで、 を二の声「大学院も三年目を迎える頃のある日、僕は別府へ帰省するつもりで、 がらない。仕方がないから、LINEにメッセージを残しておいた」とした夕方に なって、実験の手違いに気づき、どうしてもその日はやり直しの作業を なって、実験の手違いに気づき、どうしてもその日はやり直しの作業を はなければならない状況となった。帰省は翌日に延期せざるを得ず、母 しなければならない状況となった。帰省は翌日に延期せざるを得ず、母 しなければならない状況となった。帰省は翌日に延期せざるを得ず、母 に連絡しようとしたのだが、そんな時に限って、携帯も実家も電話は繋 に連絡しようとしたのだが、そんな時に限って、携帯も実家も電話は繋 に連絡しようとしたのだが、そんな時に限って、携帯も実家も電話は繋 がらない。仕方がないから、LINEにメッセージを残しておいた」

♪空蝉(部分)♪流れながら。

生きて来た今日迄歩いて来た生きて来た今日迄歩いて来たこ人はやがて来るはずの汽車を息を凝らしじっと待ちつづけている都会へ行った息子がもう迎えに来るはずだから

すまなそうに駅員がこう告げる

今日の予定は終わりました とりあえず今日は来ません

駅員「もう電車は来ません。とりあえず今日は来ません。今日の予定は終わりま二の母親に対して、すまなそうに駅員が告げる。最終のソニックから降りた客の中に、修二の姿はない。当惑している修

に母の主治医が修二にも病状を詳しく説明する時間をとってくれていい。 臓にも広く転移していて、余命はおそらく一年くらいであること、翌日 て大腸癌のことを僕に知らせた。取り切れていたはずの癌はすでに肝 て大腸癌のことを僕に知らせた。取り切れていたはずの癌はすでに肝 での声「母は、携帯電話を持つのを忘れたまま、亀川駅に僕を迎えに出ていた した」

日豊本線の日出〜豊岡間を走る特急列車の窓から見た別府の風景

ることを告げた。衝撃としか言いようのない内容だった」

る。そののは曇天で、別府の山並みや湯けむり、別府湾の風景は霞んで見える。

で、別府駅で降りることにした」修二の声「翌朝一番の特急で別府に帰った。その列車は亀川駅には止まらないの

別府駅のホーム

♪駅舎♪イン。

少し猫背に 列車のタラップを降りて来る君の手荷物は 小さな包みがふたつ

夕べ一晩 泣き続けていた そんな目をしてる驚いた顔で 僕をみつめてる君は

ホームを包み込んで故郷訛りのアナウンスが今

都会でのことは誰も知らないよ

駅舎に降り立てばそれですべてを

目をしている。ホームには、列車到着の際に流れる♪べっぷ~、べっぷには驚いた顔で見つめている。修二は、夕べ一晩泣き続けていたような修二の手荷物は、小さな包みがふたつ、少し猫背にソニックのタラップを入り

♪駅舎♪が流れながら。

-、べっぷー♪のおなじみのアナウンス。

身じろぎもせず ただ涙をこぼすだけ重すぎるはずの 君の手荷物をとれば

口を開けば 苦しみが全て 嘘に戻るようでざわめきの中で ふたりだけ息を止めてる

時計をかすめて飛ぶ ないれた小鳥が

君をもう許してる

思い出せたらいいね

改札口を抜けたならもう

故郷は春だから

かける。とホームの階段を降りる。改札口の手前で、修二が母親に呼びゆっくりとホームの階段を降りる。改札口の手前で、修二が母親に呼びゆっくりとホームの階段を降りる。修二は身じろぎもせず、ただ涙を修二の母親は、修二の手荷物をとる。修二は身じろぎもせず、ただ涙を修二の母親は、修二の手荷物をとる。修二は身じろぎもせず、ただ涙を

修二「お母さん」

修二の母親が通っている病院

二の目は、まだ泣き腫らしている。主治医から二人への説明が終わり、ロビーに並んで座っている二人。修

♪死んだらあかん (部分) ♪イン。

人を信じて 最後まで生きたらええねん泣いたら幸せが遠ざかる

修二の声「主治医からの説明を、僕よりも母の方が冷静に聞いていた。母は、静

♪死んだらあかん(部分)♪流れながら。

勿体ない勿体ない そのいのちを生きられるのに いのちを捨てる人生さいたいのに 許されない人

笑顔で愚痴って ひたすら生きたらええねん笑顔で愚痴って ひたすら生きたらええねん

修二の実家(電気をつけていないリビング)

迎えるカサブランカを撫でる。病院から帰ってきた修二と母親。元気のない二人だが、尻尾をふって出病院から帰ってきた修二と母親。元気のない二人だが、尻尾をふって出

♪防人の詩(部分) ♪イン。

修二の声「気丈に振る舞っていた母だったが、その心中を思うと、僕は神様に尋

♪防人の詩(部分)♪流れながら。

客えてください 夏が去るように 冬が来る様に すべての生命に約束があるのならば すべるように 冬が来る様に

修二の声「その後、母といろいろと話し合ったが、母は最期の時まで、住み慣れ修二の声「その後、母といろいろと話し合ったが、母は、実験の手を止められる時での方「その後、母といろいろと話し合ったが、母は最期の時まで、住み慣れ

♪防人の詩(部分)♪流れながら。

近ってしまいますか 地ってしまいますか 私の大切な故郷もみんな がってしまいますか をは死にますか かは死にますか 愛は死にますか 心は死にますか での大切な故郷もみんな

砂湯、城島高原、志高湖など)別府の風景(別府八湯、地獄めぐり、鶴見岳、十文字原展望台、竹瓦温泉、海浜

♪奇跡~大きな愛のように~(部分)♪イン。

けれどあなたを想う奇跡なら 神様に負けない くけんどあなたと同じ夢を見ることが 出来たならそれでいいあなたと同じ夢を見ることが 出来たならそれでいい 今日と未来の間に 流れる河を夢というなら

あなたの笑顔を守る為に多分僕は生まれて来たあなたは気付かなくても いつでも隣を歩いていたいあなたを包んであげたいああ大きな愛になりたい あなたを守ってあげたい

ながいながい坂道のぼるのは あなた独りじゃないどんなにせつなくても 必ず明日は来る

母の側に寄り添うようにした」あることは、十分解っていた。だから、母のことを想って、出来る限りあることは、十分解っていた。だから、母のことを想って、出来る限り

別府のホスピスの一部屋

見守っている。駆け寄る修二。その後ろには、カサブランカを連れた看護師のまり子が駆け寄る修二。その後ろには、カサブランカを連れた看護師のまり子がベッドに横たわる修二の母親。ドアを開けて部屋に到着し、ベッド脇に

修二の母親「修二、かい?」修二「お母さん!」

♪修二会♪イン。

誰となく独白く南無観世音 折から名残り雪ここは東大寺 足早にゆく人垣の君の肩にはらり 良弁椿

炎見上げつつ何故君は泣く 雪のように火の粉が降るその心 ゆらり 他所にあり その心 ゆらり 他所にあり

燃える 燃える 燃える おたいまつ 燃える走る 火影 揺れる君の横顔

修二の声「主治医の予想通り、母は一年後の弥生三月に、過去帳に記されること修二の声「主治医の予想通り、母は一年後の弥生三月に、過去帳に記されること

葬儀場と火葬場

読経の映像や、炎。修二のあふれる涙。

♪修二会♪流れながら。

ここは女人結界 君は格子の外に居り僕の背に 君の香りゆらめく

息を殺して聴く南無観世音 こもりの僧の沓の音

水よ清めよ 火よ焼き払えよ この罪この業もはやお水取り やがて始まる韃靼の胸を打つ痛み 五体投地

燃える 燃える 燃える 松明 燃える燃える 火影 揺れる あふれる涙 せる 火影 揺れる あふれる涙

別府上人が浜公園

が一つ二つヨットハーバーの方へ帰ってゆく。カサブランカ。別府湾の波はキラキラと黄金色に光って、ヨットの帆影修二がベンチに座って、向い風の中、海鳴りを聞いている。その側には、

♪黄昏迄♪イン。

空と海の青と思い出とが一列に並ぶ何時でも向い風が吹いて海を見下ろす丘の上は

今僕の側で一緒に海鳴りを聴いてるあれから大きく育って

君が愛していた仔犬は

ふたつ港へと還ってゆく

昔君と約束していた

飽きる程一緒に居ようと 世界中を船で廻ろうと 二人して年老いたならば

船が寄港するのだが、その船で世界中を廻らせてあげるって」そういえば、昔、母と約束していたっけ。別府には時々豪華なクルーズ修二の声「その日は天気が良くて、空と海の青と思い出とが一列に並んでいた。

♪黄昏迄♪流れながら。

突然に海に帰った君を

寄せて返す波を見ていたい

あくもりを懐かしむ様に

ぬくもりを懐かしむ様に

いつまでもいつまでもいつまでもなくもりを懐かしむ様にぬくもりを懐かしむ様になっまを見ていたい

いつまでも漂いたい

5gg。 6gg。

修二の声「天気が良い日は、別府湾の向こうに四国が少し見える。そう、佐田岬修二の声「天気が良い日は、別府湾の向こうに四国が少し見える。そう、佐田岬

修二の実家(母親の部屋)

へ」と記されている。紙を広げると、『主人公』と題された詩が書かれていて、最後に「修二文机の上の本を片付けている修二。ふと、本に挟まれていた紙に気づく。

♪主人公♪イン。

「あの頃」という名の駅で降りて 「書通り」を歩く 「書通り」を歩く 「書通り」を歩く いつもの喫茶には まだ時の名残りが少し 地下鉄の駅の前には「62番」のバス 地下鉄の駅の前には「62番」のバス か懸並木の古い広場と学生だらけの街 そういえば あなたの服の模様さえ覚えてる あなたの眩しい笑顔と 友達の笑い声に 抱かれて 私はいつでも

「或いは」「もしも」だなんてあなたは嫌ったけれど 時を遡る切符があれば欲しくなる時がある 時を遡る切符があれば欲しくなる時がある 時を遡る切符があれば欲しくなる時がある での私を悲しむつもりはない をつてなきゃ あなたにとても とても はずかしいから とても はずかしいから あなたは教えてくれた 小さな物語でも 自分の人生の中では 誰もがみな主人公 誰もがみな主人公

私の人生の中では 支えてください

私が主人公だと

修二の声「母がいなくなったけれど、カサブランカについては、母の入院中から 母に支えてもらおう。僕の人生の中では、僕が主人公だと」 研究室に戻る前、母の机で、僕の名前が書かれた一枚の紙を見つけた。 いたのだろう。心にしみる、本当に良い詩だ。僕も時折、思い出の中で、 おそらく、母の好きだったフランス語の詩を、僕のために訳してくれて 面倒を見てくれていたまり子が、そのまま引き取ってくれることにな った。母の部屋については、僕はしばらくそのままにしておくつもりだ。

別府市立上人小学校グランド(盆踊り会場)

招待者席に座る修二。足元にはカサブランカ。櫓の周りで別府音頭を踊 る群衆の輪を眺めている。

修二の声「お盆には、実家のある地区から盆踊りに招待された。僕は今まで知ら 加えられたことも、今回初めて知ったが、フランス語翻訳をしていた母 の歌詞が、フランス文学者として有名な詩人の西條八十によって手を 上げられて、会場のみんなで偲び、それから踊りが始まった。別府音頭 事だったらしい。当日はまず、一年間で鬼籍に入った人達の名前が読み なかったけれど、盆踊りって、元々は亡くなった人を供養するための行 にはふさわしい踊りだと思った」

アナウンス「別府音頭に続きまして、次は♪たくさんのしあわせ~♪、♪たくさ んのしあわせ~♪」

♪たくさんのしあわせ♪イン。

無駄に年喰った訳でもないでしょうよ

酸いも甘いも嚼み分けて

あれが嫌いの

これが憎いの

言わないのよへソ曲げないのよ

言わないのよ過ぎたなら笑いましょこれで傷ついたしあわせいくつかあったはずあれで損した

魔法の呪文は ありがとう しあわせくるよ

いつかまたここに 帰って来るでしょうしあわせあげましょ 隣へまわしましょ

揃いの法被を着せられ、やはり暑そう。さだ工務店の法被を着た修二やまり子たちが踊る。カサブランカもお

修二の声「僕も皆にしあわせを届けられる人間になりたいと思う」

♪たくさんのしあわせ♪流れながら。

切れないのよそっと論すのよこれがアホだのこれがアホだのとところでしている。

悲しいことも沢山あるけど

思いましょ人生それで良い 良かったんだと 良かったんだと

魔法の呪文は ありがとう しあわせくるよ

いつかまたここに 帰って来るでしょうしあわせあげましょ みんなにまわしましょ

しあわせあげましょ みんなにまわしましょしあわせあげましょ 隣へまわしましょ

いつかまたここに 帰って来るでしょうしあわせあげましょ 隣へまわしましょ

いつかまたここに帰って来るでしょう

最後に、別府湾に花火が上がる。

完

さだまさし様 および さだまさしファンの皆様へ

詫び申し上げます。

使用楽曲(順に)

風に立つライオン

桜散る

案山子

追微 熱

飛梅

豆腐が街にやって来る

あなたを愛したいくつかの理由

精霊流し

桐の花

October~リリー・カサブランカ~

つゆのあとさき

秋桜

デイジー

がんばらんば Motto

紫陽花の詩

フレディもしくは三教街 - ロシア租界にて -

September Moon~永遠という一瞬~

遥かなるクリスマス

あなたへ

一万年の旅路

療養所

残春

空蝉

死んだらあかん 防人の詩 修二会 修二会 黄昏迄

たくさんのしあわせ

修二へ~さだまさしさんに捧ぐ

http://p.booklog.jp/book/128233

著者:小池楓生子

著者プロフィール: http://p.booklog.jp/users/koikekaeko/profile

感想はこちらのコメントへ http://p.booklog.jp/book/128233

電子書籍プラットフォーム:パブー(http://p.booklog.jp/) 運営会社:株式会社トゥ・ディファクト